

武漢事務所便り週間新聞記事報告 2010.11.1-2010.11.5

2010年11月3日付け 「搜狐新聞」より

第7回「中国光バレー」国際光博覧会が昨日武漢にて開幕

武漢は今後10年のうちに「インテリジェントシティー」を創造する

昨日、武漢科学技術コンベンションセンターにおいて、第7回「中国光バレー」国際光電子博覧会及びフォーラムが開幕した。

今回の「光博覧会」の開催期間は4日間となり、参加企業は518社である。そのうち、湖北省外からの参加企業は65%、海外からの参加企業は31%を占めている。展覧会では光通信、レーザーと赤外線、半導体照明とソーラーパネル、光学及び光学パーツ、GPS、消費光電子等の分野における新技術、新製品が集中的に展示されている。期間中、「2010中国インテリジェントシティーフォーラム」「電話網、ラジオテレビ網、パソコンによるインターネットの融合」技術セミナーなど12のテーマフォーラムの開催が予定されている。国内外から30名以上のアカデミー会員、500名以上の企業家、有名人が出席し、豊富な展示内容により、3万人を超える市民の来場を見込んでいる。

今回の光博覧会の主催機関のうち、国家レベルの機関は9つあり、湖北省における各展覧会の中でもトップクラスであり、国際レベルにおいても最高級である。

光博覧会期間中、国際競争力のあるハイテク商品も展示されている。例えば、会議の予備委員会によって、展示ホールに世界最大の102インチの LCOS ハイビジョン液晶タッチパネルモニターが設置され、市民はこのスクリーンを通じて、東湖国家自主イノベーションモデル地区が建設されて以降の一年間の状況を知ることができる。

東風本田の第2工場が着工

東風本田第2工場の生産能力は24万台を予定し、「一つの計画を段階的に実施する」という戦略により、初期の生産能力は6万台となる見込みである。初期建設に投入する資金は約11.5億元(約149.5億円、1元 = 13円で計算)であり、2012年下半年から生産開始される。

第2工場は現工場の東北約4キロの武漢経済技術開発区に位置し、新たに購入した100万平方メートルの土地が建設地となる。

東風本田第2工場はプレス、溶接、塗装、組立などの生産能力を持つ。同社で初めてソーラーパネルを利用し、一部の生産工程でクリーン電力が利用されている。それにより、二酸化炭素の排出量は年間500トン減少する見込みである。同時に自然光と廃熱を利用することによって、二酸化炭素排出量を大幅に削減することができ、さらに一部の廃水を再利用した中水道整備は最大限の環境保全が実現される。